

2023年5月15日
BFACT株式会社

第三者割当増資のお知らせ（プレシリーズ A ラウンド）

BFACT株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役：江崎寛季、以下「当社」）は、この度、エンジェル投資家1名（非開示）を引受先とする約1億円の第三者割当増資を実施したことをお知らせ致します。

当社は、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学 榎本篤教授のグループ及び医療法人創和会重井医学研究所と共同で開発を進めてきた、がん微小環境（がん細胞を支える組織）*1を標的とする抗体薬物複合体*2の技術シーズをもとに設立されました。難治性がんとして知られる膵臓がん、胆管がん等では、他のがんと比較してがん微小環境が高度に発達しているため、既存の抗がん剤ではがん細胞まで到達できず奏効しないと考えられています。この問題を解決するために、当社はがん微小環境を形成するがん関連線維芽細胞*3を標的とした抗体薬物複合体の研究開発事業を実施しております。がん細胞ではなくがん関連線維芽細胞を抗体薬物複合体の標的とすることで、既存の抗がん剤と比べ効率良く抗がん剤（ペイロード）をがん細胞に届けることが期待されます。

また、本技術シーズについては若年層に好発する骨肉腫（骨の腫瘍）といった希少がんなどへの適応を目指した研究開発も進めております。

現在、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学と共同で進めている Meflin*4を標的とした抗体薬物複合体（当社開発コード：BFACT-001）は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）からの研究開発事業の支援を受けながら、製造及び非臨床試験の準備を進めております。

この度の資金調達により、BFACT-001の研究開発に加えて抗体薬物複合体のパイプラインの拡充を行うと同時に、製薬企業との協業にも努めてまいります。

* 1 がん微小環境：がん関連線維芽細胞、免疫系細胞、血管内皮細胞、細胞外基質（コラーゲンなど）から構成されており、がん細胞を支える組織として知られている。

* 2 抗体薬物複合体：抗体にリンカー（アミノ酸など）を介して、抗がん剤のペイロードが付加された構造を有するバイオ医薬品。抗体の特性を活かすことで、抗体薬物複合体を腫瘍局所まで到達させた後、付加されたペイロードが活性型となり、活性型ペイロードが腫瘍細胞を殺傷する。

* 3 がん関連線維芽細胞：がん微小環境を構成する線維芽細胞（コラーゲン等の線維を

産生する細胞)であり、がん細胞の悪性化(増殖、浸潤、転移)を促進すること知られている。

* 4 Meflin (メフリン): がん関連線維芽細胞の特異的なマーカーとして報告されている。膵臓がん及び大腸がんにおいて、Meflin 陽性がん関連線維芽細胞はがん細胞の悪性化を抑制することが報告され、注目を集めている。

【BFACT 株式会社 会社概要】

当社は、Brave Fight Against Cancer & Tumor の各単語の頭文字を取り社名にしており、難治性がんの克服を目指した研究開発事業を推進しております。特に、がん微小環境の生物学的理解に強みを持ち、がん微小環境を標的とした抗体薬物複合体の技術開発を行っております。当社が独占的実施許諾を受ける BFACT-001 の基本特許「がんを有する対象においてがんを処置することに用いるための抗 MEFLIN 抗体、および当該抗体を含む医薬組成物」については、日本、アメリカ、欧州、カナダ、オーストラリア及び中国を対象に各国移行手続きを完了しております。2020 年 12 月にシードラウンドとして ANRI 株式会社(東京都港区)より約 1000 万円の資金調達を実施。

本店： 愛知県名古屋市西区那古野 2 丁目 1 4 - 1

なごのキャンパス

代表者： 江崎寛季

設立日： 2020 年 11 月

ホームページ： <https://bfact.jp>

【本件に関するお問合せ】

BFACT 株式会社 お問い合わせ窓口 <E-mail: info@bfact.co.jp>